

令和8年8月14日

市政記者各位

経済観光文化局史跡整備活用課

## 福岡城天守台 市民向け発掘調査報告会のお知らせ

福岡市では、国史跡福岡城跡を適切に保存し、歴史的価値を次世代に継承するため、石垣や建造物などの保存・整備を進めています。天守台については、かつての状況を確認するため、令和7年度から発掘調査などを実施しています。

このたび、令和7年度に実施した天守台内側の発掘調査の成果について、下記の通り、広く市民の方に向けて報告会を実施する予定です。また、報告会の開催後、出土品の公開も行います。

取材及び周知方、どうぞよろしくお願いいたします。

### (1) 市民向け発掘調査報告会について

下記の通り、市民向け報告会を実施します。

**日 時** : 令和8年8月29日(土) 13:00~14:30

**場 所** : 福岡市博物館 講堂(定員200名)

**内 容** : ・令和7年度に実施した天守台内側の発掘調査の成果について、  
スライド等を用いて説明  
・報告会終了後、講堂前ホワイエで、令和7年度に天守台内側の発掘調査で発見された出土品(桐文瓦、巴文瓦、和釘など)を公開

**注 意** : ※受付・開場は開始の30分前から、先着順  
※公共交通機関での来場にご協力ください。  
(工事中のため、駐車場台数に限りがあります。)

### (2) 出土品の公開について

福岡市博物館の常設展示室において、令和7年度に実施した天守台内側の発掘調査の出土品を公開します。

**場 所** : 福岡市博物館 常設展示室

**開催日時** : 令和8年9月1日(火)~10月18日(日)  
9:30~17:30(入館は17時まで)

※毎週月曜日は、福岡市博物館の休館日となるため、ご覧いただけません。

なお、月曜が祝休日にあたる場合は、休館日が翌平日となります。

**内 容** : 令和7年度に実施した天守台内側の発掘調査で発見された出土品  
(桐文瓦、巴文瓦、和釘など)を公開

**注 意** : ※観覧には、常設展示室の観覧料が必要

## 《 参 考 資 料 》

### 福岡城について

#### 【国史跡 福岡城跡とは】

福岡城は初代藩主黒田長政とその父黒田如水(官兵衛)により、1601(慶長6)年～1607(慶長12)年にかけて築城された平山城です。城内は本丸・二の丸・三の丸で構成されています。城内面積は約41万㎡、濠を含めた総面積は約110万㎡で、九州の城の中でも有数の規模です。

城内には47以上の櫓があったとされ、その他に本丸御殿など多くの建造物がありましたが、明治以降ほとんどの建物が解体・払下げ等で失われ、城内に現存する建物は多聞櫓(国指定重要文化財)などごく一部です。1957(昭和32)年に国史跡指定を受けています。

#### 【天守台と穴蔵】

天守台とは、天守の土台となる石垣のことで、福岡城には大・中・小の3つの天守台があります。最も大きい大天守台の上面は、東西約25m、南北約22mの大きさです。大天守台の内側は、石垣に囲まれた空間となっており、この空間のことを「穴蔵(あなぐら)」と呼びます。

一般的に、天守は天守台石垣の上に築かれるため、穴蔵には天守1階へと上る階段が設けられました。令和7年度は、この穴蔵部分の発掘調査を行いました。

これまで、福岡城跡では50回以上の発掘調査を実施してきましたが、天守台の発掘調査は、令和7年度の発掘調査が初めてとなります。今回の報告会では、この発掘調査の結果を報告します。

#### 【令和7年度に実施した天守台内側の発掘調査の出土品】



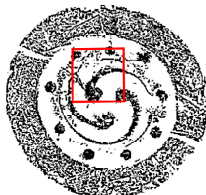
桐文瓦



桐文瓦 参考例(名護屋城出土)



巴文瓦



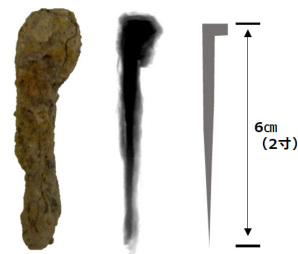
巴文瓦 参考例



左から、大天守・中天守・小天守



調査着手前の天守台内側(穴蔵)



左：実物（錆に覆われている）  
中央：X線写真（本来の姿が推定可能）  
右：推定復原図  
和釘

経済観光文化局 文化財活用部 史跡整備活用課  
担当：大塚  
TEL：092-711-4784（内線3810）  
E-Mail：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp